

地方創生推進交付金 事業実施報告（様式1）

I. 推進交付金事業の振り返り

A. 基礎情報

1. 本事業の事業名称、実績額、単独事業と広域事業の別、事業実施計画の申請時点のテーマをお聞かせください。【全員】

事業名称	平成30年度 実績額 [単位:円]	(設問Aにハード事業を含む場合のみ) 左記のうちハード事業経費 [単位:円]	単独事業と 広域事業の別	事業実施計画(申請)段階 のテーマ	事業タイプ	事業開始年度	事業実施期間
美食の街いすみ〜サンセバスチャン計画〜	ア. 総事業費口 (※交付金以外含) ¥34,756,560 イ. 国費 (交付金充当経費) ¥17,378,280 ウ. 単費 (ア-イ) ¥17,378,280	イ. 総額 (オ+カ) ¥0 オ. 国費 カ. 単費	単独	【まちづくり】コンパクトシティ 等	横展開タ イプ	H28年度	3年

1-1. 推進交付金の総事業費の支出内訳について、貴団体が支払った相手先の業種別（①〜⑩）にお聞かせください。【全員】

平成30年度の事業の 支出の内訳 [単位:千円] ※概数で結構です※「千円」単位でご記入下さい。											総事業費(ア) [単位:千円]
①農林水産	②建設	③製造	④情報通信	⑤運輸・郵便	⑥商業 (卸・小売)	⑦金融・保険	⑧不動産・ 物品賃貸	⑨サービス	⑩その他	①〜⑩の合計	
								34,757		34,757	34,757

B. KPIの設定・成果

○本事業における重要業績評価指標（KPI）の設定、及び成果の確認【広域（代表）及び単独事業のみ】

2. 本事業における重要業績評価指標（KPI）の名称、意味付け、当初値・目標値・実績値等について、お聞かせください。

		KPI1	KPI2	KPI3	KPI4
ア. 本事業における 重要業績評価指標(KPI)の名称	→	いすみ市産品の新規取引店舗数	いすみ市内でのレストラン、オーベル ジュ等の新規開業数	いすみ市への観光入込数	
KPIの 意味付け	イ. KPIの分類	③交付金事業のアウトカム	③交付金事業のアウトカム	④総合的なアウトカム	
		<凡例：選択肢> ① インプット 交付金事業に投入される資源（ヒト・モノ・カネ・時間） ② アウトプット 交付金事業による活動量（仕事の量・頻度・投下時間） ③ 交付金事業のアウトカム 交付金事業から直接的にもたらされる成果・効果 ④ 総合的なアウトカム 様々な事業・施策・政策の総体によって得られる成果・効果			
KPIの 当初値	ウ. 事業実施計画の 申請時点	当初値 [単位] 7 店舗	当初値 [単位] 0 件	当初値 [単位] 31 万人	当初値 [単位]
	イ. 平成29年度の 事業終了時点	当初値 [単位] 50 店舗	当初値 [単位] 1 件	当初値 [単位] 48 万人	当初値 [単位]
事業実施 計画の 申請時点 での、 KPIの 目標値設定	オ. 平成28年度増加分	目標値(増分) [単位] 13 店舗	目標値(増分) [単位] 0 件	目標値(増分) [単位] 2 万人	目標値(増分) [単位]
	カ. 平成29年度増加分	目標値(増分) [単位] 10 店舗	目標値(増分) [単位] 0 件	目標値(増分) [単位] 7 万人	目標値(増分) [単位]
	キ. 平成30年度増加分	目標値(増分) [単位] 10 店舗	目標値(増分) [単位] 1 件	目標値(増分) [単位] 10 万人	目標値(増分) [単位]
	ク. 上記オ〜キの累計 (自動表示)	目標値(増分) [単位] 33 店舗	目標値(増分) [単位] 1 件	目標値(増分) [単位] 19 万人	目標値(増分) [単位]
	ケ. KPI増加分の 累計	目標値(増分) [単位] 33 店舗 目標年月	目標値(増分) [単位] 1 件 目標年月	目標値(増分) [単位] 19 万人 目標年月	目標値(増分) [単位] 目標年月
	コ. 備考欄	→			
KPIの 実績値	サ. 平成28年度増加分 の実績値	実績値(増分) [単位] 13 店舗	実績値(増分) [単位] 0 件	実績値(増分) [単位] 7 万人	実績値(増分) [単位]
	シ. 平成29年度増加分 の実績値	実績値(増分) [単位] 30 店舗	実績値(増分) [単位] 1 件	実績値(増分) [単位] 10 万人	実績値(増分) [単位]
	ス. 平成30年度増加分 の実績値	実績値(増分) [単位] 22 店舗	実績値(増分) [単位] 0 件	実績値(増分) [単位] 14 万人	実績値(増分) [単位]
		計測年月 2019 年 3 月	計測年月 2019 年 3 月	計測年月 2019 年 3 月	計測年月
		目標値に対する達成度合い 220 % ①目標値を達成	目標値に対する達成度合い 0 % ①目標値を達成	目標値に対する達成度合い 140 % ①目標値を達成	目標値に対する達成度合い % ①目標値を達成
	セ. KPI増加分の 累計(実績)	実績値(増分) [単位] 65 店舗 目標値に対する達成度合い 197 % ①目標値を達成	実績値(増分) [単位] 1 件 目標値に対する達成度合い 100 % ①目標値を達成	実績値(増分) [単位] 31 万人 目標値に対する達成度合い 163 % ①目標値を達成	実績値(増分) [単位] 目標値に対する達成度合い % ①目標値を達成
	ソ. 備考欄	→			

(目標値未達の場合のみ) 実績値累計の目標未達理由	タ、最も影響の大きい理由						
	チ、次に影響の大きい理由						

<凡例：選択肢> ① 外的要因 ② 計画不適切 ③ その他 ④ 不明 ⑤ 事業未実施

③「その他」を選択した場合は、その内容をご記入ください。

--	--	--	--

2-1. 「移住者数」、「新規雇用者数」、「宿泊者数」、「新商品・サービスの売上高」を本事業のKPIに掲げている場合、設問2でKPI1からKPI4のいずれとして記載したかお聞かせください。

設問2のKPI番号 (KPI1～KPI4)	移住者数	新規雇用者数	宿泊者数	新商品・サービスの売上高		

○交付金事業の地方創生への効果 【全員】

3. 本交付金事業の地方創生への効果について、お聞かせください。

なお、広域事業の代表及び単独事業は、設問2のセ「目標値に対する達成度合い」の回答結果等を踏まえて総合的に判断の上で、選択してください。

事業効果	<凡例：選択肢>
① 地方創生に非常に効果的であった	① 地方創生に非常に効果的であった 例：全てのKPIが目標値を達成するなど、大いに成果が得られたとみなせる場合 ② 地方創生に相当程度効果があった 例：一部のKPIが目標値に達しなかったものの、概ね成果が得られたとみなせる場合 ③ 地方創生に効果があった 例：KPI達成状況は芳しなかったものの、事業開始前よりも取組が前進・改善したとみなせる場合 ④ 地方創生に対して効果がなかった 例：KPIの実績値が開始前よりも悪化した、もしくは取組としても前進・改善したとは言えないような場合

C. 自立性担保の進捗

○自立性の進捗状況

4. 実施計画をご覧ください。【全員】

「先駆性に係る取組」の「(1)自立性」の「3～5年以内の自立化の見込み」で回答した選択肢をお選び下さい。

実施計画に記載された自立化の見込み
①あり (自主財源による自立)

<凡例：選択肢>

① あり (自主財源による自立)
② あり (地方公共団体の一般財源による負担)
③ なし

4-2. 設問4で「あり(①,②)」と回答いただいた方のみ、お答えください。

実施計画に記載された自立化の見込みは、当初の見込みどおりに進捗していますか。

平成30年度事業を踏まえた自立化の進捗
②見込みどおり自主財源等確保

<凡例：選択肢>

① 見込みを上回って自主財源等確保	② 見込みどおり自主財源等確保	③ 見込みを下回って自主財源等確保	④ 自主財源等確保の目途はたっていない
-------------------	-----------------	-------------------	---------------------

○自立化の課題 【全員】

5. 平成30年度事業を踏まえて、取組みの自立化に向けて課題と感じていらっしゃることを、可能な範囲で具体的に記入ください。

(観点の例：収入・財源の確保、ビジネスモデル、事業推進体制、技術・ノウハウを有する人材など)

食の街を推進するために牽引する団体として、港の朝市をはじめとする任意団体の法人化。

D. 事業の実施状況

○事業実施時に留意した項目 【全員】

6. 貴団体が本事業を実施するにあたって留意した項目について、お聞かせください。(〇はい/×はいい)

【事業アイデア・事業手法の検討段階】

<input type="checkbox"/> ア. 地域住民や利害関係者との話し合いを通じて課題やニーズを明確化している	<input type="checkbox"/> キ. スケールメリットや人材・ノウハウ融通のため、複数の地域間で連携している
<input type="checkbox"/> イ. 定量的・客観的な分析を通じて地域の実態やニーズを捉えている	<input type="checkbox"/> ク. 事業実施体制の構築において、地域の企業・団体等の既存組織・ネットワークを活用している
<input type="checkbox"/> ウ. 地域の特徴ある資源や強みを活用している	<input type="checkbox"/> ケ. 関係者の役割・責任について明確化している
<input type="checkbox"/> エ. 事業手法の検討に外部人材・知見を活用している	
<input type="checkbox"/> オ. 異なる分野の政策を組み合わせた事業とするため、団体内の複数部署や様々な分野の民間企業と連携している	
<input type="checkbox"/> カ. 連携している政策分野 (最大3つまで)	1 ①農林水産分野 2 3

政策間連携に関して、特に工夫した内容がある場合は以下にご記入ください。

食の街PRのための料理イベント時に生産者を会場に招き、育成(漁獲)状況等を説明させ、食材の付加価値を向上させた

<凡例：選択肢>

① 農林水産分野	③ ローカルイノベーション分野	⑤ 人材分野	⑦ ワークライフバランスの実現等	⑨ コンパクトシティ等
② 観光分野	④ 生産活動のまち分野	⑥ 若者雇用対策	⑧ 小さな拠点分野	⑩ なし

【事業の具体化段階】

<input type="checkbox"/> コ. 資金調達の方法や事業採算性など事業が継続性をもって自走していくことのできるプロセスを明確化している	<input type="checkbox"/> シ. 事業終了までの詳細な工程計画(四半期単位、月単位等)を策定している
<input type="checkbox"/> サ. 経営視点からの検証のため、事業実施経験のある人材を活用している、または知見ある外部専門家から助言を受けている	<input type="checkbox"/> ス. 事業と直接性が、客観的な成果を表すKPIを選定し、妥当な水準の目標値を設定している

【事業の実施・継続段階】

<input type="checkbox"/> セ. 事業実施主体間で定期的コミュニケーションを行っている	(ソ. 左記コミュニケーションの頻度 ①月1回以上)	<凡例：選択肢> (ソ、チ共通)
<input type="checkbox"/> タ. KPIの進捗について定期的に管理している	(チ. 左記進捗管理の頻度 ②四半期に1回程度)	① 月1回以上 ② 四半期に1回程度 ③ 半期に1回程度 ④ 1年に1回程度
<input type="checkbox"/> ツ. 庁外に担い手となるキーパーソンや、事業を継続的に進めていくマンパワーを確保している		
<input type="checkbox"/> テ. 事業の目的・目標や生じつつある効果等の現状、事業がもたらすメリットについて情報発信し、事業実施に対する納得感を醸成している		
<input type="checkbox"/> ト. 地域住民・事業者や利害関係者が事業の推進や改善に参加できる仕組みをつくらせている		

【事業の評価・改善段階】

<input type="checkbox"/> ナ. 外部組織や議会等により事業の効果を多角的に評価検証している	<input type="checkbox"/> ヌ. 事業の評価を踏まえて対応策を決定し、実行に移している
<input type="checkbox"/> ニ. KPIの達成状況を定期的に確認し、未達成の場合はその要因を分析している	<input type="checkbox"/> ネ. 事業の改善方針について次年度以降の事業計画に反映している

○官民連携の状況 【全員】

7. 民間との連携の内容および連携の頻度について、下記区分(産・学・金・労・言・士)ごとにお聞かせください。

産業界	大学	金融機関	労働団体	言論界	士業
-----	----	------	------	-----	----

<凡例：選択肢>

貴団体との連携内容 貴団体とのコミュニケーション頻度
※複数ある場合は上位を選択

連携内容	④その他	④その他	⑤連携なし	⑤連携なし	⑤連携なし	⑤連携なし	① 事業主体として参画	① 月1回以上
上記「その他」の場合の内容	チームを組んで参画	チームを組んで参画					② 協議会への参加	② 四半期に1回程度
連携頻度	①月1回以上	①月1回以上					③ 個別相談・打合せの実施	③ 半期に1回程度
							④ その他	④ 1年に1回程度
							⑤ 連携なし	⑤ 連携なし

○事業を継続的に進めるための工夫 【全員】

8. 事業を効果的かつ継続的に進めるために貴団体内で実施している工夫について、お聞かせください。

事業を効果的かつ継続的に進めるための工夫
⑥執務スペースの配置工夫等による部署間コミュニケーション促進

<凡例：選択肢> ※最も効果的な工夫を一つ選択

① 業務内容の文書化（マニュアルの作成等）	⑤ 部署横断的な定例会議の開催
② 複数担当者を置いた上で人事異動の時期をずらす	⑥ 執務スペースの配置工夫等による部署間コミュニケーション促進
③ 人事異動後も旧担当者による支援を可能とする	⑦ 特段の工夫は実施していない
④ 首長直轄の部署横断的なプロジェクトチームの設置	⑧ その他

「⑧その他」を選択した場合は、その内容を具体的に記入ください。

E. 効果検証

○議会による効果検証 【全員】

9. 議会による効果検証の有無、時期について、お聞かせください。

<凡例：選択肢>

議会による効果検証の有無	議会による効果検証の時期
①実施した	2019 年 6 月

① 実施した	② 実施予定	③ 実施しない（予定）
--------	--------	-------------

○外部組織による効果検証 【全員】

10. 外部組織による効果検証の時期、本事業の評価について、お聞かせください。

<凡例：選択肢>

外部組織による効果検証の有無	外部組織による効果検証の時期	外部組織による本事業の評価
①実施した	2019 年 5 月	①地方版総合戦略のKPI達成に有効であった、との意見

① 地方版総合戦略のKPI達成に有効であった、との意見
② 地方版総合戦略のKPI達成に有効とは言えない、との意見

○効果検証に関する工夫

11. 議会または外部組織による効果検証の実施に当たり、特に工夫した内容がある場合は以下にご記入ください。

○事業実施状況の見直し

12. 設問9または設問10で「①実施した」と回答いただいた方のみ、お答えください。

議会または外部組織による効果検証を通じた、事業の実施状況の見直しについて、お聞かせください。

<凡例：選択肢>

効果検証を通じた事業見直しの状況
①効果検証において「改善が必要」との指摘はなく、事業は適切に実施されている

① 効果検証において「改善が必要」との指摘はなく、事業は適切に実施されている
② 効果検証において「改善が必要」との指摘はあったものの、適切な改善が図られている
③ 効果検証において「改善が必要」との指摘はあったが、現状では適切な改善が図られていない

12-1. 設問12で「②適切な改善が図られている」と回答いただいた方のみ、お答えください。

効果検証結果を受けた改善内容とその効果について、お聞かせください。

F. 事業を進める中での課題・苦勞、及びそれに対する取組の修正・改善

13. 平成30年度の事業を進める中での課題・苦勞について、お聞かせください。 【全員】

事業を進める中での課題・苦勞の有無	②課題・苦勞はほとんどなかった
-------------------	-----------------

<凡例：選択肢>

① 課題・苦勞があった	② 課題・苦勞はほとんどなかった	③ 課題・苦勞は全くなかった
-------------	------------------	----------------

13-1. 設問13で「①課題・苦勞があった」と回答いただいた方のみ、お答えください。以下の中から、特に苦勞したことを最大で3つまで、お聞かせください。

特に苦勞したこと（3つまで）

<凡例：選択肢>

① 事業推進体制の検討	⑥ 庁内・組織内（幹部、原課、財政課等）との調整・合意形成
② 事業経営や技術ノウハウを有する人材の確保・育成	⑦ 庁外・組織外（地域内・地域外の事業者、住民）との調整・合意形成
③ ビジネスモデル・資金繰りの検討	⑧ 連携先の地方公共団体との調整・合意形成
④ 事業実施場所（施設・設備）の検討	⑨ その他（例：季節せめ外部環境変化が起こった 等）
⑤ 規制・許認可への対応	

※⑨については、広域事業の場合のみ、選択ください。

「⑨その他」を選択した場合は、その内容を具体的に記入ください。

13-2. 設問13-1を回答いただいた方のみ、お答えください。設問13-1の課題・苦勞に対応して、取組を進めながら修正・改善を行われた場合、その内容について、可能な範囲で具体的に記入ください。

注）事業実施計画の申請時点での想定との相違点に対し、取組の事中（平成30年度内）において、修正・改善により取組を前進させた点をお聞かせください。

14. 平成31年度以降も継続して事業を実施する団体のみ、お答えください。平成30年度で交付金事業が終了した場合であっても、事業として継続する場合はお答えください。

平成30年度の事業実施・成果を踏まえて、平成31年度以降における取組の修正・改善について、可能な範囲で具体的に記入ください。

注）事業実施計画の申請時点での対比で、平成30年度事業成果を踏まえたPDCAによる事業改善の観点から、取組を修正・改善させる点をお聞かせください。

G. 今後の事業展開方針

15. 本事業の今後の方針について、お聞かせください。 【全員】

今後の方針	②事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる）
-------	-------------------------------------

<凡例：選択肢>

① 事業の縮小（計画通りに事業を継続する（または、概ね同内容で継続する））	④ 事業の縮小
② 事業の発展（事業が効果的であったことから取組の追加等更に発展させる）	⑤ 事業の中止（継続的な事業実施を予定していたが中止する（または、した））
③ 事業の改善（事業の効果が不十分であったことから見直し（改善）を行う（または、行った））	⑥ 事業の終了（当初予定通り事業を終了する（または、した））

II. その他

○事例の成功要因 【全員】

16. 本事業の成功要因について、実施した工夫（及びその特徴）とともにお聞かせください。（最大3つまで）

事例の成功要因	①魅力的な地域資源の活用
実施した工夫及びその特徴	一次生産者と料理人が連携し、料理イベントを行うことで素材（食材や風土）の付加価値を向上させ販路拡大と所得向上に努めた
事例の成功要因	②高い自立性の確保
実施した工夫及びその特徴	漁業分野において、漁業者が講師を招き魚の保存技術の向上に努めた
事例の成功要因	③官民協働の充実
実施した工夫及びその特徴	港の朝市（マルシェ）においてシェフの視察ツアーや商談会を開催した

<凡例：選択肢>

① 魅力的な地域資源の活用	⑤ 政務連携の充実
② 高い自立性の確保	⑥ 推進力のある事業主体の形成
③ 官民協働の充実	⑦ 適切な地方創生人材の確保
④ 地域間連携の充実	⑧ その他

16-1. 「地方創生関係交付金の活用事例集」の掲載事例として、本事業を取り上げるべきかについて、理由とともにお聞かせください。

事例の自己推薦	②課題解決のための取組内容が他団体の参考となるため推薦する
「④その他の理由により推薦する」を選択した場合の推薦理由	食を通じ多くの移住、起業を促進させたことや1次産業生産者が食材の価値に気付き付加価値を向上させることができたこと、（釣り上げた魚を船上で活〆することでの鮮度保持と旨味向上への取り組み。農業・化学肥料を使わないお米を全量学校給食に使用。）風土や官民共同で取り組んだロケ地の誘致。いすみ市産品が購入できる港の朝市（マルシェ）は、年間売上1億円を突破し近隣ホテル（市外）からお客様の誘客にもつながった。

<凡例：選択肢>

① 計画を上回る大きな効果をもたらした事業として推薦する
② 課題解決のための取組内容が他団体の参考となるため推薦する
③ 課題や苦労が他団体への示唆に富むため推薦する
④ その他の理由により推薦する
⑤ 特に推薦しない

○他の地方創生関係交付金の活用状況 【全員】

17. 平成28年～平成30年当初・推進交付金を活用した本事業と密接な関係性を有する事業として、その他の地方創生関係交付金を活用していますか。（〇はいくつでも）

- | | |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 平成26年補正・地方創生先行型交付金を活用した。 | <input type="checkbox"/> 平成27年補正・地方加速化交付金を活用した。 |
| <input type="checkbox"/> 平成28年補正・地方創生拠点整備交付金を活用した。 | <input type="checkbox"/> 平成29年補正・地方創生拠点整備交付金を活用した。 |
| <input type="checkbox"/> 平成31年当初・地方創生推進交付金を活用している。 | <input type="checkbox"/> 平成30年補正・地方創生拠点整備交付金を活用している。 |
| <input type="checkbox"/> 平成28年～平成30年当初・推進交付金以外に地方創生関係交付金活用実績はない。 | |

17-1. 本事業に関連して他の補助金の交付を受けている場合は、その所管機関及び補助事業名称についてお聞かせください。（最大2つまで）
（他の補助金を活用していない場合は「その補助金の利用なし」を選択ください）

補助金の所管機関	補助金1	補助金2
その他と回答した場合、所管機関を記入	①その他補助金の利用なし	①その他補助金の利用なし
補助事業名称		

<凡例：選択肢>

① その他補助金の利用なし	⑦ 経済産業省
② 内閣府（設問17以外）	⑧ 国土交通省
③ 復興庁	⑨ 環境省
④ 文部科学省	⑩ 都道府県
⑤ 厚生労働省	⑪ 市区町村
⑥ 農林水産省	⑫ その他

○ガイドライン、事例集の活用状況

18. 内閣府から公表している「地方創生事業実施のためのガイドライン」や「地方創生関係交付金の活用事例集」の活用状況について、お聞かせください。【全員】

ガイドライン、事例集の活用状況	①活用している
-----------------	---------

<凡例：選択肢>

① 活用している
② 活用していない
③ ガイドライン、事例集の存在を知らなかった

18-1. 設問18で「①活用している」と回答いただいた方のみ、お答えください。以下の中から特に活用した項目を、お聞かせください。（〇はいくつでも）

- | | | | | |
|--------------------------------|---------------------------------|---|---|------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 先駆性要素 | <input type="checkbox"/> KPIの設定 | <input checked="" type="checkbox"/> 事業化プロセス(総論) | <input checked="" type="checkbox"/> 事業化プロセス(各論) | <input type="checkbox"/> 事例集 |
|--------------------------------|---------------------------------|---|---|------------------------------|

18-2. 設問18で「①活用している」と回答いただいた方のみ、お答えください。ガイドライン、事例集の活用方法について、お聞かせください。（〇はいくつでも）

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> 地方創生交付金事業のテーマ探しや計画策定にあたり参照している | <input checked="" type="checkbox"/> 地方創生交付金事業の実施・運営にあたり参照している |
| <input type="checkbox"/> 地方創生交付金事業以外の事業のテーマ探しや計画策定にあたり参照している | <input type="checkbox"/> 地方創生交付金事業以外の事業の実施・運営にあたり参照している |

○ガイドライン、事例集に関する意見・要望 【全員】

19. 内閣府から公表している「地方創生事業実施のためのガイドライン」や「地方創生関係交付金の活用事例集」についてのご意見・ご要望がありましたら、お聞かせください。